

## 2. 南山城の石造美術の概要

### 1. はじめに

南山城の石造美術については、当館常設展示で鎌倉時代の石仏・石塔を中心に紹介している。

年表や写真で概観し、前栂の中世墳墓群の発掘資料や、当地の弥勒石仏と木造像との関連、石仏に対する今も生きる信仰、全国的にも優品の多い当尾の遺品と寺堂など他の宗教施設との関連などについて示した。この小展示だけで、当地方の石造美術資料の優位性は十分理解できる。

ここでは、展示及び展示図録でふれることのできなかった桃山時代までの在銘遺品と、基本的な参考文献を紹介したい。在銘遺品は石造遺品に多い無銘遺品を資料化するため、参考文献はこれまでの業績を知るうえで必要であり、今後調査研究を進めるための基本となる。この概要を南山城の石造美術研究の第一歩としたい。

### 2. 年表解説

奈良時代、当地方では笠置寺に弥勒磨崖仏がすでに造立されている。この像は元弘の兵火によって焼滅し、今はそれを模刻した奈良室生の大野寺や加茂町ミロク辻の弥勒磨崖仏から想像するしかない。

次に遺品の見られるのは平安時代も終りころで、石仏では宇治市の蜻蛉石弥陀三尊石仏、笠置寺の虚空蔵石磨崖仏、石塔では田辺町観音寺、長岡京市光明寺の層塔がある。

在銘遺品は鎌倉時代をまたなければならない。大山崎の宝積寺の層塔は鎌倉時代中期もはじめころのもので、2層以上の軸部に梵字を彫ったのとなひのがあり、もとは5層ではなかったかといわれている。当地方で鎌倉時代の中頃から石塔石仏の造立がさかんとなるが、宝積寺塔はその先駆をなすものである。なお、この時代の無銘遺品については展示図録の表を参照いただきたい。

南北朝時代は造立も低調で、見るべきものも少

なくなる。なかでも当地方では最も古い浄瑠璃寺町石のうち、在銘のあった一基が失われたのは残念である。なお、年号はいずれも北朝年号である。

室町時代は、それまでの多様な石仏から地蔵が中心となる。磨崖仏も少なくなり、舟形光背に浮彫されたものが以後一般的となる。

石塔では、新殿神社十三重塔は室町時代には珍しい層塔で、三界萬霊、百萬遍念仏の供養塔としても古い例の一つである。こういった講、結衆による念仏供養碑は、六字名号を彫った板碑の流行を当地方にもたらした。

この時代の末ごろから舟形の表面に五輪塔などを薄肉彫りした板碑があらわれる。個人の法名が彫られてあり、個人の供養塔として造立されたのであろう。こうした板碑や小形五輪塔は数量が多く、初期のころのもの以外は除いた。

桃山時代ごろから石燈籠の奉納がさかんになることに石清水八幡において顕著で、なかには個人で10基の奉納例がある。

文献は③『京都古銘聚記』を基本とし、㊦印は当館の調査資料で、主要文献に見あたらないもの。

石材は表中の備考に表示したもの以外は花崗岩製で、その数が多く当地は花崗岩文化圏といえる。

### 3. 参考文献解題

当地方の石造美術にふれた文献は多い。ただ、多くが部分的な紹介で、当地方を中心とした論考や、基本的な調査を行なった報告は少ない。ここでは年表作製及び調査において、参考とした基本文献だけを年代順に並べ、若干の解題を行なう。

なお頭の番号は年表の文献番号である。

① 史迹美術同友会『史迹と美術』1～続刊中(1930～)

歴史考古学・古美術・史跡の幅広い分野の、論考・報告をのせる。南山城の石造美術に関連する報告も多い。ことに村山修一氏の「南山城當尾の石造遺物・上中下」(214～216)などの論考や、60回にのぼる例回報告も貴重である。

② 坪井良平「山城木津惣墓墓標の研究」(『考古学』10巻 東京考古学会 1939)

現在東方山腹に移転し、大五輪塔だけをのこす旧木津惣墓の石造物のうち、正応5年の大五輪塔から明治末期の墓標までの2,300基について、詳細に記録をとり形式分類し、時代変遷を細述したものである。図表が多く理解しやすく、1ヶ所に限定されてはいるが、その方法論と共にまず参考とすべきものである。

③ 川勝政太郎・佐々木利三『京都古銘聚記』  
(スズカケ出版部 1941)

山城国内の524点の慶長以前の金石文を収録する。当地方の石造美術は111項目、133点に及ぶ。現在なおこれ以上まとまった報告はない。巻末に京都の金石文研究史(川勝)、造立者銘に信仰集団としてみえる講衆の論考(佐々木)がある。

④ 川勝政太郎『京都石造美術の研究』(河原書店 1948)

石造美術を形式学的な方面からだけでなく、多方面から観察し、石の文化のなかに位置づける。そして文献を参考にしながらも物自体に語らせようとする歴史考古学的立場にたって、京都の文化圏を石造美術から見たものである。

南山城は京都ではあるが、八幡・宇治・宇治田原を境に南の大和文化圏に入れる。東は和束、鷲峰山・宇治田原を結ぶ線で、以東は近江の文化圏となる。大和文化圏は大和系石大工の作品分布、石燈籠や基壇の手法が、近江文化圏については近江を中心に鎌倉南北朝期に流行した近江式装飾文をその文化圏設定資料とする。この他、特説として蜻蛉石の弥陀三尊来迎図等についての論考がある。

これ以後の成果を加えた下記の本がある。

⑤ 川勝政太郎『京都の石造美術』(木耳社1972)

⑥ 川勝政太郎『日本石材工芸史』(綜芸舎1958)

日本の石造美術の形式、銘文、文献などを詳細に検討し体系化したもので、石造美術研究の集大成である。

南山城についてもふれるところが多い。大和を中心に活躍した伊派の石工を系統づけたなかに当地方で活躍する末行、行長を位置づけた。③の近江式装飾文についても、全国的な分布状況などか

ら近江で発生し、どう展開したかを述べ、なかで大和文化圏は数例でしかなく特殊であることを検証した。

⑦ 川勝政太郎・五味義臣『石の奈良』(東京中日新聞出版局 1966)

大和文化圏にあることから相楽郡一帯、ことに加茂町・和束町の遺品は大和の石造美術を書いた本のなかに収録されている。これもその一つで、相楽郡の遺品を大和の石造美術のなかに位置づけ大和との関連についてふれるところが多い。巻末の「地域別主要古遺品一覧表」では相楽郡内の109件の石造美術が紹介されている。なお、この他に大和の石造美術の紹介で南山城にふれた主要なものには次のようなものがある。

⑧ 西村貞『奈良の石仏』(全国書房 1974)

⑨ 太田古朴『大和の石仏観賞』(綜芸舎 1966)

⑩ 清水俊明『大和の石仏』(創元社 1974)

⑪ 奈良石仏会『野ほとけ』1～現在も発刊中  
(1971～)

南山城のほとんどの市町村に及び、遺物を点でとらえるのではなく、他の資料とのつながりのなかで調査され、新資料の掲載も多い。

⑫ 田岡香逸「南山城の石造美術」1～5(石造美術学会『石造美術』9～12号 1979～1980)

南山城の主要石塔と、近江式装飾文のある石塔3点について紹介している。うち1点は新資料であり、当地方の近江式装飾文は計4点となった。

また大和と近江の石造文化圏の接点について、川勝氏の論を進めるかたちで、従前の近江式装飾文、反花式基壇に加えて、宝篋印塔の両者の様式の違いにもふれながら、野洲川を両石造文化圏の境と論考している。

⑬ 山本寛二郎「南山城石仏おぼえがき」3

(城南郷土史研究会『やましろ』16 1983)

在銘無銘153の石仏資料年表の労作がつく。

⑭ 田辺郷土史会「田辺町の石造物」(同会『筒城』29 1984)

種類年代を限定せずに町内石造物を網羅的に調査している同会の、中間報告である。

⑮ 山城町教育委員会『山城町の石仏』(同会発

行 1983)

町内約30ヶ所の石仏の調査報告書である。鎌倉時代から江戸時代まで含まれ、それぞれに写真、法量が記されている。

⑩ 宇治田原町史編さん委員会「宇治田原町の石

造美術」(『宇治田原町史参考資料第16輯』同会発行 1980)

町内石造物を網羅したもので、1点各に銘文、法量と、解説がついている。鎌倉時代から江戸時代末までの在銘年表に加えて、梵鐘銘も付いている。

## 南山城の在銘石造美術

### 鎌倉時代

番号	西暦	年号	名称	文献	所有者	所在地	備考
1	1241	仁治2	九重塔	⑧	宝積寺	大山崎町大山崎	2層以上の軸部の梵字からもとは五層と推測。
2	1245	寛元3	自然石碑	⑨	森神社	加茂町森	八幡宮本殿前石橋建設記念碑、「橋大工紀富久」。
3	1258	正嘉2	石造水船	③	海住山寺	加茂町例幣	当地方水船6のなかで唯一の在銘紀年銘有り。
4	1262	弘長2	阿弥陀石仏	③	東小会所	加茂町東小	もと笠をのせた柄がある。大字辻より移転。
5	1262	弘長2	地藏・阿弥陀・十一面観音磨崖仏	③		加茂町東小	十一面観音は左手に花瓶右手に錫杖をもつ長谷谷形。
6	1267	文永4	地藏石仏	⑩		和東町撰原	撰原峠の石組石窟内。立像で仏滅紀年。
7	1274	文永11	弥勒線刻磨崖仏	③		加茂町岩船	笠置寺の弥勒磨崖仏を模したもの、「大工末行」。
8	1274	文永11	笠塔婆	⑫	十輪寺	山城町平尾	笠を欠失。定印弥陀の尊像と弥陀の種子を彫る。
9	1277	建治3	十三重塔	③	天神社	山城町神童子	顕教系四方仏種子だが、北の弥勒が地藏に変わる。
10	1278	弘安元	十三重塔	③	法泉寺	田辺町草内	元文4年再興で相輪は後補。「大工猪末行」。
11	1281	弘安4	地藏石仏	①	西念寺	加茂町河原	西念寺墓地の堂内に安置。舟形光背をおう立像。
12	1286	弘安9	十三重塔	③		宇治市中ノ島公園	叡尊が宇治橋再興に当り建立。相輪笠九層目後補。
13	1287	弘安10	不動磨崖仏	③		加茂町岩船	谷間の巨岩に彫られ、岩船寺の奥院という。
14	1287	弘安10	宝篋印塔	③	熊野神社	和東町湯船	旧熊野神社の社地に建つ。巨杉の根元。相輪後補。
15	1291	正応4	宝篋印塔	①	熊野神社	和東町湯船	14塔の横。基礎と笠の残欠。「大工行長」。
16	1292	正応5	五輪塔	③		木津町社町	旧木津惣墓の供養塔。空風輪後補。永祿5年追銘。
17	1295	永仁3	宝篋印塔	③	笠置寺	笠置町笠置	大師堂の前の手水鉢に転用したもの。
18	1295	永仁3	地藏石仏	⑩		南山城村北大河原	中山峠の頂上に立つ。
19	1295	永仁3	笠塔婆	①	西明寺	加茂町大野	塔身舟形内に薬師坐像。「大工橋友安」。
20	1295	永仁3	六角形石灯笼	③	石清水八幡宮	八幡市八幡	現在貴賓館入口に建つ。典型的な京都系石灯笼。
21	1295	永仁3	五輪塔	⑨	高田寺	加茂町高田	地輪だけの残欠。「大工橋友安」、田地寄進状。
22	1296	永仁4	石造水盤	③	浄瑠璃寺	加茂町西小	十二面に隅取られ、上部中央が深鉢状。
23	1296	永仁4	不動線刻磨崖仏	③		加茂町西小	中央で割れている。浄瑠璃寺の奥院。
24	1298	永仁6	十三重塔	③		加茂町辻	千日墓地に建つ。基礎に奉納施設有り。
25	1299	永仁7	阿弥陀三尊磨崖仏	③		加茂町岩船	通称ワライ仏、「大工末行」。
26	1300	正安2	弥勒磨崖仏	③		和東町白栖	和東川沿の岩壁に彫る。仏滅紀年銘有り。
27	1300	正安2	宝篋印塔	③	金胎寺	和東町原山	鷲峯山頂上に建つ。仏滅紀年銘有り。
28	1307	徳治2	阿弥陀石仏	③		加茂町西小	通称「マラ地藏」、自然石に彫り込み笠をのせる。
29	1308	徳治3	地藏石仏	①	泉橋寺	山城町上狛	造立年代は「多聞院日記」に記載。
30	1312	応長2	不動石龕仏	③	岩船寺	加茂町岩船	奥壁に不動立像と、不動の種子。
31	1319	元応元	宝篋印塔	③	笠置寺	笠置町笠置	弥勒岩前方の寄せ集め塔の基礎残欠。
32	1323	元亨3	阿弥陀三尊石仏	③		加茂町西小	通称「ヤケボトケ」、向って左地藏右十一面観音。
33	1325	正中2	阿弥陀三尊種子板碑	③	極楽寺	田辺町天王	天王共同墓地入口に建っていたのを移転。
34	1326	正中3	不動・毘沙門線刻磨崖仏	③	森神社	加茂町森	森八幡神社の本地仏、神仏習合資料としても貴重。

南北朝時代

番号	西暦	年号	名称	文献	所有者	所在地	備考
1	1334	建武元	不動磨崖仏	①		木津町鹿背山	石窟内奥壁に浮彫。「大工末次」。
2	1334	建武元	不動線刻磨崖仏	⑨		加茂町内倉	岩肌を荒取りし、不動立像を線彫。
3	1335	建武2	宝篋印塔	⑫	遍照院	宇治田原町	手水鉢に転用の残欠基礎。格狭間内に開花蓮。
4	1342	康永元	五輪塔	③	禅定寺	宇治田原町禅定寺	一辺に複弁4葉を彫り出した反花式基壇を据える。
5	1343	康永2	阿弥陀・地藏磨崖仏	③		加茂町東小	巨岩の2面を使い、右方弥陀の右側に線刻灯籠。
6	1348	貞和4	宝篋印塔	③	来迎寺	向日市物集女	境内に建つ。塔身に金剛界四仏種子を刻む。
7	1350	観応元	石灯籠	③	大乘院	八幡市八幡	現在宮崎宮(福岡市箱崎)にある。「大工井行長」。
8	1355	文和4	笠塔婆	③		加茂町西小	浄瑠璃寺門前、月輪内4面とも梵字アを刻む。
9	1366	貞治5	六角形石灯籠	③	浄瑠璃寺	加茂町西小	三重塔の前に建つ、本堂前にも同様式の石灯籠。
10	1373	応安6	笠塔婆	③		加茂町西小	浄瑠璃寺に至る町石で他に3基、この塔は現亡。

室町時代

番号	西暦	年号	名称	文献	所有者	所在地	備考
1	1399	応永6	地藏石仏	⑪	地藏堂	加茂町観音寺	道沿の堂内にまつられる。
2	1411	応永18	宝篋印塔	③	岩船寺	加茂町岩船	境内寄せ集め塔の残欠基礎の一面に銘文。
3	1433	永享5	四角形石灯籠	③	白山神社	田辺町宮津	竿の一面に銘文。基礎宝珠は後補である。
4	1441	永享13	地藏石仏	⑪		加茂町大畑	公民館横の小堂内、舟型光背、立像、安山岩製。
5	1441	嘉吉元	石塔	③	法泉寺	田辺町草内	井戸端に積まれた石塔の残欠。
6	1455	康正元	宝篋印塔	③	称名寺	宇治市笠取	称名寺墓地。基礎の輪郭上に銘文。砂岩製。
7	1462	寛正3	一石五輪塔	③		城陽市寺田	寺田惣墓。各輪に「妙・法・蓮・華・経」、砂岩製。
8	1464	寛正5	九重塔	③	極楽寺	田辺町天王	寺墓地に建つ。塔身は金剛界四仏種子を彫る。
9	1469	応仁3	地藏石仏	⑫		南山城村田山	
10	1474	文明6	地藏石仏	②		木津町木津	旧木津惣墓、一石丸彫りの等身大地蔵立像。
11	1476	文明8	五輪卒塔婆形板碑	⑬	海住山寺	加茂町例幣	上より上品上生、地輪に「一町」とあり。
12	1478	文明10	五輪卒塔婆形板碑	⑫	海住山寺	加茂町例幣	阿弥陀坐像と梵字アを彫った塔身の残欠。町石。
13	1482	文明14	五輪塔	⑩		加茂町辻	千日墓地、地輪に銘文、逆修塔。
14	1491	延徳3	名号板碑	③	光明寺	精華町乾谷	光明寺墓地。念仏一結衆17人の造立。
15	1491	延徳3	十三重塔	③	新殿神社	精華町山田	相輪欠失、百萬遍念仏・三界萬霊の銘と交名。
16	1494	明応3	地藏石仏	②		木津町木津	旧木津惣墓。光背面に六地藏種子。法華講衆造立。
17	1497	明応6	名号板碑	③		加茂町東小	東小惣墓、名号の上に弥陀の種子、念仏結衆中。
18	1498	明応7	笠塔婆	③	法泉寺	田辺町草内	境内。三寶大荒神王の上の宝珠内に梵字ウーン。
19	1499	明応8	地藏石仏	③	宝珠寺	加茂町辻	境内、光背、立像。
20	1501	文亀元	石塔	③	若王寺	精華町下狛	残欠、六部供養塔。
21	1503	文亀3	名号板碑	③	正覚寺	木津町木津	同寺墓地。
22	1503	文亀3	名号板碑	⑩		加茂町辻	千日墓地、名号の上に弥陀の種子、六斎念仏。
23	1504	文亀4	地藏石仏	⑪		木津町鹿背山	道沿、地藏講22名の造立。
24	1504	永正元	阿弥陀石仏	⑪	西念寺	木津町鹿背山	本堂前。
25	1505	永正2	地藏石仏	⑩	十輪寺	山城町椿井	同寺裏墓地、光背。
26	1507	永正4	石階	③	朱智神社	田辺町天王	左右の耳石に銘あり。
27	1507	永正4	地藏石仏	③	大智寺	木津町木津	境内地藏堂に安置、同じ境内に十三重塔が建つ。
28	1509	永正6	五輪塔形板碑	③		木津町木津	旧木津惣墓、キャ・カ・ラ・バ・アを配す。逆修。
29	1509	永正6	地藏石仏	③		木津町市坂	市坂墓地、立像で26人中により造立。

番号	西暦	年号	名 称	文 献	所 有 者	所 在 地	備 考
30	1510	永正 7	五輪塔	◎	蓮台寺	精華町南稲八妻	本堂背後に寄せ集められた残欠基礎。
31	1513	永正10	地藏磨崖仏	⑮	谷山不動	山城町平尾	不動磨崖仏の左。他に十一面観音の磨崖仏。
32	1513	永正10	法華供養板碑	⑧		木津町木津	旧木津惣墓，上に釈迦三尊種子。
33	1513	永正10	十三仏板碑	⑧		田辺町飯岡	飯岡墓地，上方虚空蔵は尊像で，12仏は種子。
34	1515	永正12	一石五輪塔	◎	西念寺	木津町鹿背山	本堂前，直接地上に建っている。
35	1516	永正13	地藏石仏	⑬	灯笼寺	木津町木津	墓地の入口。
36	1517	永正14	四角形石灯籠	③	下炭山八幡	宇治市下炭山	銘の入った火袋だけが当初のもの，砂岩製。
37	1517	永正14	地藏石仏	②		木津町木津	旧木津惣墓，舟形光背，立像，上方に弥陀の種子。
38	1518	永正15	地藏石仏	⑭	西念寺	田辺町三山木	寺背後の墓地の入口に建つ。舟形を背う立像。
39	1519	永正16	石塔	③		加茂町岩船	旧大畑惣墓，地輪残欠。逆修塔。現所在地不明。
40	1520	永正17	名号板碑	③	常念寺	加茂町里	弥陀の種子。念仏講一結衆の造立。
41	1524	大永 4	地藏石仏	⑪		南山城村南大河原	舟形光背に浮彫した地藏立像。
42	1526	大永 6	地藏石仏	⑪		木津町鹿背山	鹿背山オオバカ。舟形を背う立像。
43	1526	大永 6	名号板碑	◎	金蔵院	加茂町尻枝	名号は梵字，三部経一結衆等の造立。
44	1526	大永 6	地藏石仏	⑬		木津町市坂	安養寺墓地。
45	1529	享禄 2	地藏石仏	⑪	鶯滝寺	加茂町西	小堂内に安置。舟形光背をおった立像。
46	1530	享禄 3	阿弥陀磨崖仏	⑬		笠置町笠置	赤皿谷登り口，木津川に面した巨岩。
47	1534	天文 3	阿弥陀磨崖仏	③		笠置町笠置山	笠置寺行在所西。
48	1534	天文 3	十一面観音磨崖仏	⑪		南山城村南大河原	岩座の上に立ち，右手に錫杖を持つ。
49	1537	天文 6	地藏石仏・五輪塔群	③		精華町北稲八間	共同墓地，石仏に逆修人数14人，14基に各戒名。
50	1538	天文 7	名号板碑	③	長福寺	和束町撰原	同寺墓地，反花式の基壇にのる。
51	1539	天文 8	地藏石仏	⑬	西念寺	木津町鹿背山	
52	1541	天文10	石階	③	朱智神社	田辺町天王	左右の耳石に銘文。
53	1541	天文10	弥陀・六地藏磨崖仏	⑬		南山城村北大河原	
54	1543	天文12	宝塔板碑	③		山城町上狛	共同墓地。
55	1544	天文13	五輪塔	③		加茂町岩船	共同墓地，正面ア・ビ・ラ・ウン・ケン。逆修塔。
56	1545	天文14	地藏石仏	②		木津町木津	旧木津惣墓，等身大の立像で地藏講衆の造立。
57	1545	天文14	宝篋印塔	⑫	金胎寺	和束町原山	多宝塔と本堂の間に建つ。反花式基壇上に建ち，完全。
58	1550	天文19	五輪塔板碑	③	笠置寺	笠置町笠置	同寺墓地，五輪塔形を厚肉に彫出す。
59	1551	天文20	五輪塔板碑	③		加茂町西小	共同墓地，五輪塔にア・ビ・ラ・ウン・ケン。
60	1552	天文21	名号板碑	◎		加茂町大門	大門共同墓地，名号の上方に弥陀三尊種子。
61	1556	弘治 2	四角形石灯籠	◎	狛神社	山城町椿井	上狛庄内の安穩，檀那の繁昌等の願文あり，
62	1557	弘治 3	名号板碑	◎		加茂町辻	千日墓地，斎講供養。
63	1559	永禄 2	地藏石仏	③		和束町撰原	共同墓地，舟形光背，施無畏・宝珠の立像。
64	1559	永禄 2	名号板碑	◎		加茂町大畑	共同墓地，上方に弥陀の種子。
65	1559	永禄 2	地藏石仏	⑬		木津町片山	木津惣墓。
66	1560	永禄 3	名号板碑	◎		加茂町辻	千日墓地。
67	1560	永禄 3	十三仏板碑	③		加茂町辻	千日墓地，斎講衆。
68	1561	永禄 4	四角形石灯籠	③	石清水八幡宮	八幡市八幡	竿の銘文上方に本地の弥陀三尊種子を彫る。
69	1562	永禄 5	四角形石灯籠	③	石清水八幡宮	八幡市八幡	火袋後補，竿上方に弥陀三尊種子。逆修。
70	1562	永禄 5	六角形石灯籠	③	石清水八幡宮	八幡市八幡	完全で，若宮社に奉納。
71	1562	永禄 5	五輪塔	◎		加茂町辻	千日墓地。
72	1563	永禄 6	十三仏板碑	⑬		加茂町北下手	オオクラ墓地。
73	1563	永禄 6	名号板碑	③		加茂町辻	千日墓地，斎講結衆。
74	1564	永禄 7	名号板碑	③		加茂町岩船	観音寺跡，時講結衆。

番号	西暦	年号	名 称	文 献	所 有 者	所 在 地	備 考
75	1564	永禄7	地藏石仏	⑬	西光寺	加茂町美浪	同寺墓地。
76	1565	永禄8	名号板碑	⑪	大念寺	加茂町大野	同寺墓地，二基並び建つ。
77	1565	永禄8	名号板碑	⑪	大念寺	加茂町大野	同寺墓地。
78	1565	永禄8	阿弥陀石仏	③		田辺町飯岡	共同墓地，光背に來迎印の浮刻立像，光明線刻。
79	1565	永禄8	地藏石仏	◎		加茂町勝風	舟形を背う地藏立像。
80	1565	永禄8	阿弥陀石仏	⑬	西光寺	加茂町美浪	同寺墓地。
81	1569	永禄12	法華供養板碑	④		木津町相楽	道沿の小堂内，上方に釈迦の種子。
82	1569	永禄12	阿弥陀石仏	⑬		笠置町白栖	共同墓地。
83	1570	永禄13	阿弥陀石仏	⑧	海住山寺	加茂町例幣	同寺墓地，舟形を背う來迎弥陀立像を厚肉彫り。
84	1570	元亀元	四角形石灯籠	⑧	石清水八幡宮	八幡市八幡	竿上方に弥陀三尊種子，砂岩製。
85	1570	元亀元	四角形石灯籠	⑧	石清水八幡宮	八幡市八幡	竿上方に弥陀三尊種子，砂岩製。
86	1573	元亀4	地藏石仏	⑬		南山城村田山	宮ノ前墓地。

### 桃 山 時 代

番号	西暦	年号	名 所	文 献	所 有 者	所 在 地	備 考
1	1574	天正2	四角形石灯籠	⑧	棚倉孫神社	田辺町田辺	本殿横に建つ。宝珠の一部欠損。
2	1574	天正2	不動石仏	⑪	不動堂	加茂町兎並	
3	1575	天正3	五輪塔	◎		加茂町辻	千日墓地。
4	1578	天正6	宝篋印塔	⑫	海住山寺	加茂町例幣	同寺墓地，残欠基礎。
5	1579	天正7	十三仏板碑	⑪	大念寺	加茂町大野	同寺墓地。天蓋の下方に十三仏を半肉彫り。
6	1580	天正8	阿弥陀石仏	③		加茂町辻	千日墓地，舟形光背に來迎印阿弥陀立像を浮彫。
7	1584	天正12	六角形石灯籠二基	③	宝積寺	大山崎町大山崎	三重塔前に立つ一対。
8	1584	天正12	石灯籠	◎	大念寺	大山崎町大山崎	表門内の西方に立つ。
9	1584	天正12	名号板碑	◎		加茂町大畑	共同墓地。
10	1588	天正16	地藏石仏	⑬		笠置町下有市	よかん堂。
11	1588	天正16	五輪塔板碑	◎		加茂町大畑	共同墓地。
12	1589	天正17	四角形石灯籠	⑧	石清水八幡宮	八幡市八幡	後世の組み合わせ，上方に弥陀三尊種子。
13	1590	天正18	弥陀・地藏十六体仏	⑧		田辺町天王	共同墓地，各像の右に法名を彫る。
14	1590	天正18	名号板碑	◎		加茂町河原	西念寺墓地，凝灰岩。
15	1592	天正20	名号板碑	⑧	浄土院	宇治市宇治	基地入口の正面。反花式基壇，砂岩製。
16	1595	文禄4	名号板碑	◎		加茂町河原	西念寺墓地。
17	1598	慶長3	阿弥陀種子板碑	⑧	安福寺	木津町木津	同寺境内。
18	1601	慶長6	名号板碑	⑧	常念寺	加茂町里	鐘楼横，逆修結衆。
19	1603	慶長8	四角形石灯籠	⑧	御栗栖神社	宇治田原町南	本堂の右手前。
20	1603	慶長8	六角形石灯籠	⑧	石清水八幡宮	八幡市八幡	笠は後補，中台・火袋・宝珠も不明瞭。
21	1604	慶長9	双五輪塔板碑	⑧	浄土院	宇治市宇治	表面に二基を線刻。一方は戒名，他は逆修。
22	1605	慶長10	四角形石灯籠	⑧	石清水八幡宮	八幡市八幡	竿に銘文。
23	1606	慶長11	四角形石灯籠	⑧	高神社	井手町多賀	竿に銘文。
24	1606	慶長11	四角形石灯籠	⑧	石清水八幡宮	八幡市八幡	弥陀三尊・不動の種子。
25	1606	慶長11	地藏石仏	⑮	十輪寺	山城町平尾	舟形光背，上方に六地藏の種子，砂岩製。
26	1607	慶長12	四角形石灯籠	⑧	石清水八幡宮	八幡市八幡	残欠竿，砂岩製。
27	1607	慶長12	五輪塔板碑	◎		加茂町大畑	共同墓地。
28	1607	慶長12	多宝塔板碑	⑧		加茂町東小	共同墓地，逆修，砂岩製。
29	1607	慶長12	阿弥陀石仏	⑧		山城町上狛	共同墓地，舟形光背に來迎印立像，砂岩製。

番号	西暦	年号	名 称	文献	所有者	所在地	備 考
30	1607	慶長12	阿弥陀石仏	⑧	海住山寺	加茂町例幣	同寺墓地入口六地藏の中央、光背に来迎印立像。
31	1608	慶長13	四角形石灯笼	⑧	石清水八幡宮	八幡市八幡	竿上方に弥陀三尊の種子。
32	1608	慶長13	四角形石灯笼	⑧	石清水八幡宮	八幡市八幡	竿上方に弥陀三尊の種子。
33	1608	慶長13	四角形石灯笼	⑧	石清水八幡宮	八幡市八幡	竿上方に弥陀三尊の種子。
34	1608	慶長13	四角形石灯笼	⑧	石清水八幡宮	八幡市八幡	竿上方に弥陀三尊の種子。
35	1608	慶長13	四角形石灯笼	⑧	高神社	井手町多賀	竿上方にパイ・マン・サの種子。
36	1609	慶長14	四角形石灯笼	⑧	石清水八幡宮	八幡市八幡	竿上方に弥陀の種子。
37	1609	慶長14	名号板碑	⑩	西念寺	加茂町河原	同寺墓地、凝灰岩。
38	1610	慶長15	弥陀一尊種子板碑	⑧	笠置寺	笠置町笠置	同寺墓地、大念仏衆の造立。
39	1610	慶長15	阿弥陀石仏	⑬		加茂町大畑	オオクラ墓地。
40	1611	慶長16	四角形石灯笼	⑧	石清水八幡宮	八幡市八幡	竿上方に弥陀三尊種子、参道東側。
41	1611	慶長16	四角形石灯笼	⑧	石清水八幡宮	八幡市八幡	参道東側。
42	1611	慶長16	四角形石灯笼2基	⑧	石清水八幡宮	八幡市八幡	竿上方に弥陀三尊種子、参道西側、一対で奉納。
43	1612	慶長17	四角形石灯笼	⑧	石清水八幡宮	八幡市八幡	参道東側、砂岩製。
44	1612	慶長17	四角形石灯笼	⑧	石清水八幡宮	八幡市八幡	竿上方に弥陀三尊種子、参道西側。
45	1612	慶長17	四角形石灯笼	⑧	石清水八幡宮	八幡市八幡	竿上方に弥陀三尊種子、参道東側、砂岩製。
46	1613	慶長18	四角形石灯笼	⑧	石清水八幡宮	八幡市八幡	参道西側、砂岩製、再興の追銘。
47	1613	慶長18	四角形石灯笼	⑧	石清水八幡宮	八幡市八幡	竿上方に弥陀三尊種子、参道東側。
48	1613	慶長18	六角形石灯笼10基	⑧	石清水八幡宮	八幡市八幡	同形同銘で、参道の左右に並ぶ。
49	1613	慶長18	四角形石灯笼	⑧	宇治神社	宇治市宇治	本殿前、「作者 忠右衛門 平蔵」、砂岩製。
50	1615	慶長20	六角形石灯笼	⑧	石清水八幡宮	八幡市八幡	本殿正面右方。
51	1615	慶長20	四角形石灯笼	⑧	石清水八幡宮	八幡市八幡	現在個人所有（大阪府枚方市）



鎌倉時代 11 西念寺地藏石仏



鎌倉時代 18 中山峠地藏石仏



鎌倉時代 19 西明寺笠塔婆  
(技師 印南敏秀)